

ペットライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp

獣医のカルテ



1

井上動物病院長

(高岡市野村)

井上 人士也

人間が虫歯になりやすいのは唾液中に含まれるアミラーゼで口腔内の悪玉細菌の栄養となる糖分を作ることが原因の一つと言われています。犬や猫は唾液中にアミラーゼを含まないので、糖分の好きな悪玉細菌が増えにくく、虫歯の発生はまれです。

ところが残念なことに、犬・猫は歯石を作りやすい口腔内環境にあり、歯石に関連した歯周病の発生率は人間よりはるかに高いのです。犬や猫の食物の食べ方は、人間と異なり、犬歯で引き裂き、臼歯でかみ、千切りし、砕いて適当な大きさにしてそのまま飲み込むのが本来の食べ方です。これらの

犬・猫の歯石



幼い頃から歯の手入れに慣れさせることが大切

歯周病で内臓に障害も

一連の動作が歯磨きの役割を担っています。

市販されているフードやおやつには「かんで、千切りして、砕いて」といった食べ方のできる物は少なく、歯石が付きやすいのが現状です。さらに犬・猫の口腔内は弱アルカリ性で、人間の数倍のスビードで歯石を作りやすい条件になっています。歯石が付着すると、

歯石の内部は悪玉細菌の巣となり歯周病をどんどん悪化させます。歯周病によって増えた悪玉細菌の一部が血流に乗って、脳や心臓、腎臓、肝臓などの各臓器に運ばれ、各種の障害を起こす原因にもなります。

このような状況を防ぐには、歯石を少しでも付きにくくする口腔対策が重要ですが、完璧な方法は

ありません。しかし日々の歯の手入れは大切なので、日頃から犬・猫の口元や歯に触れる機会をつくり慣れさせることが大切です。これは幼いころから行うとより効果的です。

残念ながら、既に歯石が多く付着している場合や歯周病が進行している場合は、全身麻酔下での口腔内の処置が必要になります。

事前に血液検査や心臓機能の検診を行い、麻酔に耐えられる状態と判断できれば全身麻酔下で歯石を取り除き、それから歯周病を治療するのが最善の方法です。歯石予防や歯石除去処置の各種方法については獣医師にご相談ください。

◇ 獣医師会の会員が、病気の予防や治療法を解説します。